

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 15 日現在

機関番号：34406

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13075

研究課題名（和文）奈良県吉野郡川上村内所蔵資料の調査研究 奈良県南部の寺社ネットワークの解明

研究課題名（英文）Survey and research of materials held in Kawakami-mura, Yoshino-gun, Nara Prefecture : Elucidating the Network of Temples and Shrines in Southern Nara Prefecture

研究代表者

横山 恵理 (Yokoyama, Eri)

大阪工業大学・情報科学部・准教授

研究者番号：70781425

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、奈良県吉野郡川上村内所蔵資料の調査・分析を行った。ただし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していたほとんどの調査を中断せざるをえず、研究計画を変更・延長した部分がある。調査は、川上村内1機関を対象として悉皆調査を行った。調査報告は所蔵機関のご意向を尊重し2025年度に実施する予定である。川上村内所蔵資料は、奈良県南部の寺社圏を視野に入れて考察する必要があり、これら寺社圏を通しての制作背景や書写活動、人的資源の交流の実態の解明を試みた。調査結果の一部のうち公開許可を得たものについては、国際学術会議における成果報告を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

川上村内所蔵資料からは、奈良県南部寺社圏を通じた制作背景や書写活動、人的資源交流が少なからず認められる。また、川上村を三十三霊場に見立てた作品等からは江戸時代の信仰の実態が確認できる。しかしながら、その寺社圏におけるネットワークや信仰は従来注意を払われずにきた。本研究は、村内資料悉皆調査を通してそのネットワークの解明を試みただけでなく、江戸時代の信仰の実態や寺社の役割も明らかにするよう努めた。川上村を取り巻く信仰のネットワークの一端を解明したものと考える。なお、調査結果のうち所蔵者のご意向から一定期間公開を見合わせるもの、および、個人情報保護の観点から公開に慎重にならざるをえないものがある。

研究成果の概要（英文）：In this study, we surveyed and analyzed materials held in Kawakami-mura, Yoshino-gun, Nara Prefecture. However, due to the prevention of the spread of the new corona infection, most of the planned surveys had to be suspended, and the research plan was changed or extended in some areas.

The survey was an all-inclusive survey of one institution in Kawakami Village. The survey report is scheduled to be submitted in FY2025, respecting the wishes of the holding institution. The materials held in Kawakami-mura need to be examined in the context of the temple and shrine sphere in the southern part of Nara Prefecture, and we attempted to elucidate the background of production, copying activities, and exchange of human resources in the temple and shrine sphere. Some of the research results, for which we obtained permission to publish, were reported at an international academic conference.

研究分野：日本古典文学

キーワード：奈良県川上村 地域資料 寺社ネットワーク 丹生川上神社上社 運川寺 三十三霊場

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究では、奈良県吉野郡川上村の各機関に所蔵される資料の調査・分析を中心に行うことを目指した。川上村内所蔵資料は、これまで『川上村史』に書名が挙げられるものの、内容が公開されていない資料が多く、全容が解明されてこなかった。また、報告者が本研究申請以前に川上村内の機関で簡易的な調査を実施した際、『川上村史』に収められていない資料群の存在が判明した。研究開始当初は、川上村内所蔵資料の全容については、必ずしも十分に明らかにされていなかったのが現状であった。

川上村内所蔵資料の成立については、多武峰神社や南法華寺(壺阪寺)等、奈良県南部の寺社圏を視野に入れて考察する必要がある。また、川上村を三十三霊場に見立てた作品や、各寺社に所蔵される資料からは江戸時代の信仰の実態が確認できる。しかしながら、その寺社圏におけるネットワークや信仰のありようについても、従来注意を払われずにきた。そこで、本研究を通して、村内資料悉皆調査を行うとともに、奈良県南部の寺社ネットワークの解明を試みるだけではなく、江戸時代の信仰の実態や村内各寺社の役割も明らかにすることを目指した。

川上村内所蔵資料を有する2機関から調査許可を得たことから、本研究申請を行った。ただし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、申請時に計画していたほとんどの調査を中断せざるをえず、研究開始当初の研究計画を大きく変更・延長している。

2. 研究の目的

本研究の目的は、大きく3点ある。

(1) 川上村内所蔵資料の悉皆調査

川上村内新出資料や蔵書悉皆調査に基づき、川上村内所蔵資料の全容を解明することを目的とした。また、調査結果を活用し、各資料の特徴を明らかにしたうえで、各機関の信仰の実態を考察するなど、調査結果に基づく研究の遂行も目指した。

(2) 奈良県南部の寺社ネットワークの解明

川上村内所蔵資料と奈良県南部の寺社圏との連関の解明を目指した。川上村内所蔵資料の成立については、多武峰神社や南法華寺(壺阪寺)等、奈良県南部の寺社圏を視野に入れて考察する必要がある。奈良県南部の寺社間における蔵書の移動や書写活動、および人的資源の移動等、寺社間のネットワークに着目したテーマは事実上初めての研究となる。

(3) 川上村内所蔵資料に記された歴史認識の解明

川上村内所蔵資料の分析を通し、各作品がいかなる歴史を描き出そうとしたのかを明らかにすることを目指した。特に、先行研究が論じてきた史実だけに着目せず、作品の制作者・書写者・享受者それぞれが、いかに川上村で語られてきた歴史や川上村における信仰を捉えていたかという問題に焦点を当て、資料内容を考察することを目標とした。

3. 研究の方法

(1) 川上村内所蔵資料の悉皆調査

①丹生川上神社上社蔵書悉皆調査

丹生川上神社は大正十一年(一九二二)以来、上社(川上村)・中社(東吉野村)・下社(下市町)の三社をあわせて官幣大社丹生川上神社とする形式を採っている。創建については『続日本紀』天平宝字七年(七六三)五月庚午の条にその名が見えるものの、応仁の乱以降は所在が不明とされ、三社いずれが創建当初の丹生川上神社であるかが論争となってきた。川上村に所在する丹生川上神社上社は大滝ダム建設に伴い、平成二年に現在地(川上村・迫)へ遷座したが、いまだ蔵書の悉皆調査が行われていない。蔵書のほとんどが江戸時代の記録であるが、悉皆調査を行い、蔵書群の全容を明らかにした。また、蔵書の精査によって、丹生川上神社上社で伝えられている歴史認識を解明するとともに、信仰の実態を明らかにする手がかりを得た。

②新出資料・運川寺蔵『川上荘三十三霊場絵巻』内容分析

運川寺蔵『川上荘三十三霊場絵巻』は、これまで『川上村史』に書名が挙げられるものの内容紹介は行われていなかった作品である。絵巻は信仰の対象であるという信仰上の理由により、実物の実見はかなわなかったものの、複製品の実見の機会を得、絵巻の全容を解明する手がかりを得た。本絵巻の分析を通し、これまで取り上げられることがなかった川上村における観音信仰について考察する一助とした。

③某地区所蔵資料の悉皆調査

川上村某地区が所蔵する資料について、事実上初めて悉皆調査を行った。資料群には、某地区内社寺の宗門帳等が含まれ、調査結果から、江戸時代の信仰の実態を明らかにすることが可能となった。ただし、個人情報保護の観点から公開に慎重にならざるをえないものも多い。

(2) 川上村内所蔵資料と奈良県南部の寺社圏との関連の解明

川上村内に所蔵される資料の制作背景や書写の実態を解明することで、各資料の享受、およびそれに基づく知識流通の体系や、奈良県南部の寺社ネットワークの実態を明らかにすることを試みた。

①運川寺『川上荘三十三霊場絵巻』制作背景と紀州の寺社圏との関係について考察した。また、吉野町・金峯山寺関連資料に収められる川上村関連記事を手がかりに、川上村内所蔵資料を再検討し、川上村内だけではなく、奈良県南部の寺社間における蔵書の移動や書写活動、人的資源の移動、および経済・信仰における関係等、寺社間のネットワークに着目して分析を行った。

②某地区所蔵資料から、信仰および吉野町との人的交流・書籍ネットワークについて考察した。某地区所蔵資料の悉皆調査を経て、某地区に存する寺社の信仰の歴史を解明する基礎を築いた。また、近世期の吉野町との人的交流や書物ネットワークを知る基礎資料も含まれていたことから、それらの解明を行った。特に、某地区で保存されていた版本は、その内容と地域の歴史が密接にかかわるものであり、近世期の当該地区で作品がいかに享受されたかということや、どのような歴史認識を持っていたかということについて、考察するてがかりになるものであった。

(3) 川上村内所蔵資料に記された歴史認識の解明

川上村に伝来する資料のうち南朝史に言及する作品の表現を分析し、各資料がいかなる歴史を描き出そうとしたのかを明らかにすることを目的とした。村田正志氏や森茂暁氏らによる先行研究では史実の解明に注力されてきたが、本研究では、作品の制作者・書写者・享受者それぞれが、いかに川上村の歴史（特に南北朝史）を捉えたかに焦点を当てて、資料内容を分析することを目指した。具体的には、一貫して後南朝の年号が用いられている運川寺蔵『大般若経』の制作背景の解明を試みた。また、某地区所蔵資料の資料群の特徴から、南朝史だけではなく、江戸時代の村民らが有していた歴史認識を明らかにすることを目指した。

4. 研究成果

調査成果のうち、所蔵者のご意向から、一定期間公開を見合わせる必要があるものがある。また、個人情報保護の観点から公開に慎重にならざるをえないものも多い。さらに、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、申請時に計画していたほとんどの調査を中断せざるをえず、研究開始当初の研究計画を大きく変更・延長している。

(1) 2019年度は、運川寺蔵『大般若経六〇〇巻』の一部調査を実施した。また、村内で新たに発見された地域資料700点の悉皆調査に着手した。現在、書誌情報の記録を進めているところである。本地域資料は、当該地区に存する寺社の信仰の歴史を解明する基礎となるものである。また、近世期の吉野町との人的交流や書物ネットワークを知る基礎資料も含まれている。特に保存されている版本は、その内容と地域の歴史が密接にかかわるものであり、近世期の当該地区で作品がいかに享受されたかを考察するてがかりになる。ただし、個人情報保護の観点から調査結果の公開には慎重にならざるを得ない。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、調査を中断せざるを得なかった。なお、2020年度～2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、それまでに予定していたほとんどの調査を中断せざるをえず、本研究の予定を変更・延長している。

(2) 2022年度～2023年度は、最終年度として調査を再開するとともに成果発表のまとめに努めた。

調査は、川上村内1機関を対象として悉皆調査を行った。調査報告は所蔵機関のご希望を尊重し2025年度に実施する予定である。また、川上村運川寺所蔵『川上荘三十三霊場絵巻』調査に関しては、調査させていただいた内容の一部をふまえた研究成果を国際学術会議にて口頭発表した(“Creation of a Digital Literary Map of Kawakami Village, Yoshino-gun, Nara Prefecture for Regional Revitalization”, IEVC2024: THE 8TH IIEEJ INTERNATIONAL CONFERENCE ON IMAGE ELECTRONICS AND VISUAL COMPUTING)。当該絵巻に関する調査報告は、所蔵機関関係者の許可を得たうえで2024年度に行う予定である。

当該研究の成果は、非公開ながら川上村内の一部関係者に報告を行っている。関係者からは文学・歴史・宗教・伝承の各分野からの貴重な教示が寄せられ、今後の研究につながるものとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Eri Yokoyama, Hiroshi Sunaga, Makoto J Hirayama
2. 発表標題 Creation of a Digital Literary Map of Kawakami Village, Yoshino-gun, Nara Prefecture for Regional Revitalization
3. 学会等名 IEVC2024: THE 8TH IEEE INTERNATIONAL CONFERENCE ON IMAGE ELECTRONICS AND VISUAL COMPUTING (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------